



かめおか プラスチ ックごみ ゼロ宣言



京阪神の大都市近郊にありながら 豊かな自然に恵まれた京都府亀岡市



京野菜の産地「京の台所」 亀岡

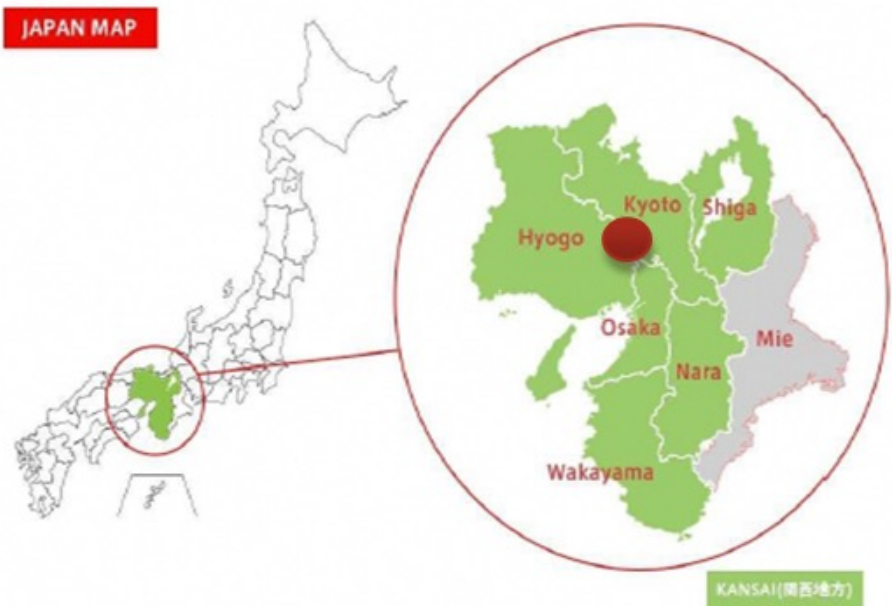


亀岡市の三大観光



～保津川下り
～トロッコ列車
～湯の花温泉

- ・京都市の西隣に位置し、JR京都駅から快速21分、高速道路網で大阪府
- ・兵庫県と結ばれている利便性の高い立地環境
- ・京都随一の穀倉地帯
- ・人口 87,741人（2021.4.1時点）



～亀岡のまちを包む霧～
大地の呼吸である霧は、京野菜をはじめ、質の高い農産物を育てている。



春



夏



秋



冬

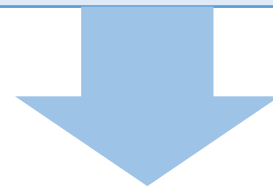
保津川に漂着するプラスチックごみの状況



保津峡に漂着したごみ

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に至る経過

2004年	保津川下りの船頭 さんによる清掃活動が始まる
2007年	保津川の環境保全に取り組む NPO法人プロジェクト保津川 が誕生（法人設立は2008年）
2012年	内陸部の自治体初 海ごみサミット2012亀岡保津川会議 開催
2013年	<small>(みんなで作ろう)</small> 川と海つながり共創プロジェクト 設立
2015年	環境先進都市を目指すビジョン を示す
2018年	亀岡ゼロエミッション計画 を策定



2018年12月13日かめおかプラスチックごみゼロ宣言

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」 宣言文

深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系によって大きな影響を与え、地球規模の問題となっています。ここ亀岡でも、大量のペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみ問題が、保津川をはじめとする自然景観や市民の生活環境、そして観光にも大きな影響を与えているだけでなく、「市の魚 アユモドキ」に代表される多様な川の生態系にも影響を及ぼすことが危惧されています。

この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そして、私たちにできる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。

今、世界では、使い捨てプラスチックごみの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取組みを発信してきました。こうした取組みをさらに深化させ、みなさんとともに2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指します。そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。

2018年12月13日

亀岡市長 桂川孝裕 亀岡市議会議長 湊泰孝

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」 宣言文

【目指す目標】

- 1 市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋 禁止に踏み切り、エコバック持参率100%を目指す取組みを進めます。
- 2 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」 世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。
- 3 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
- 4 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。
- 5 市民や事業者の環境に配慮した取組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡』のブランド力向上を目指します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



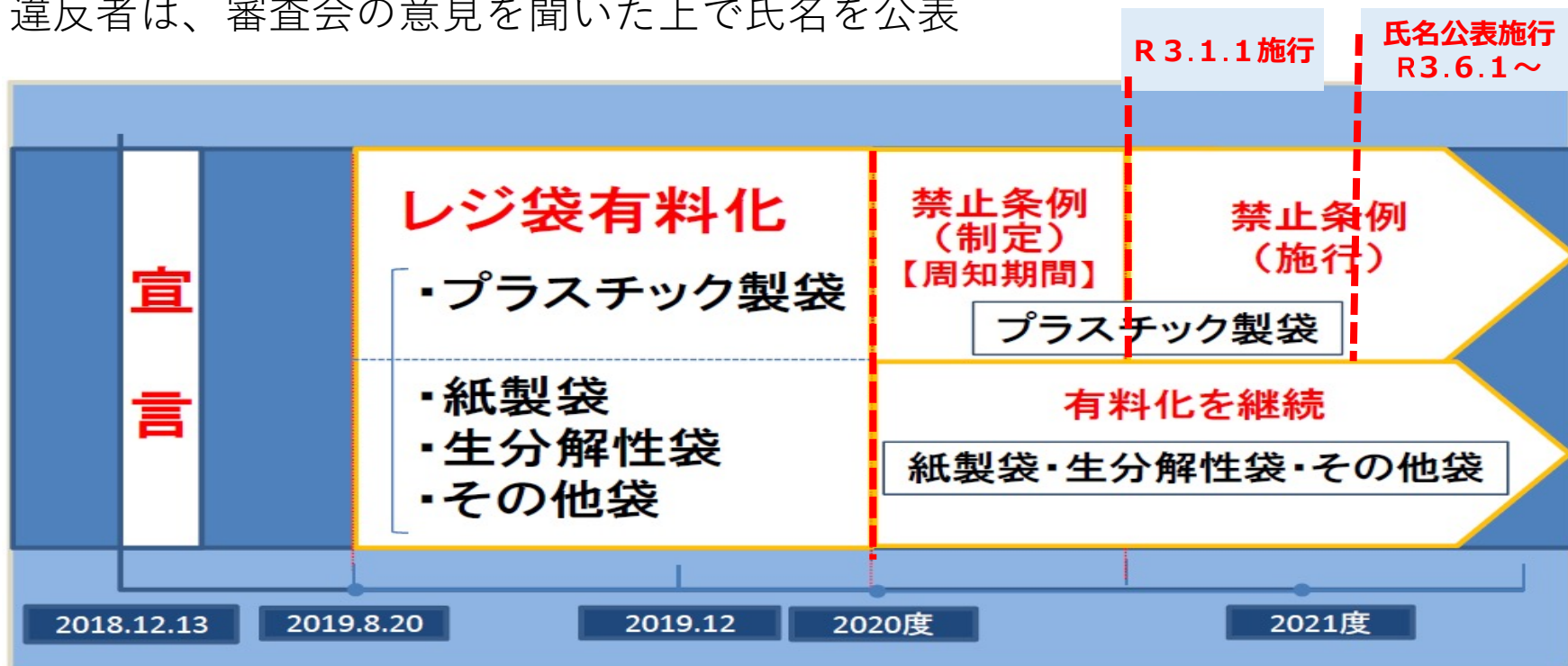
レジ袋の有料化 ～そして提供禁止条例制定へ

- ▶2019年8月20日 レジ袋有料化スタート
- ▶2020年3月24日 亀岡市プラスチック製レジ袋提供禁止

に関する条例制定

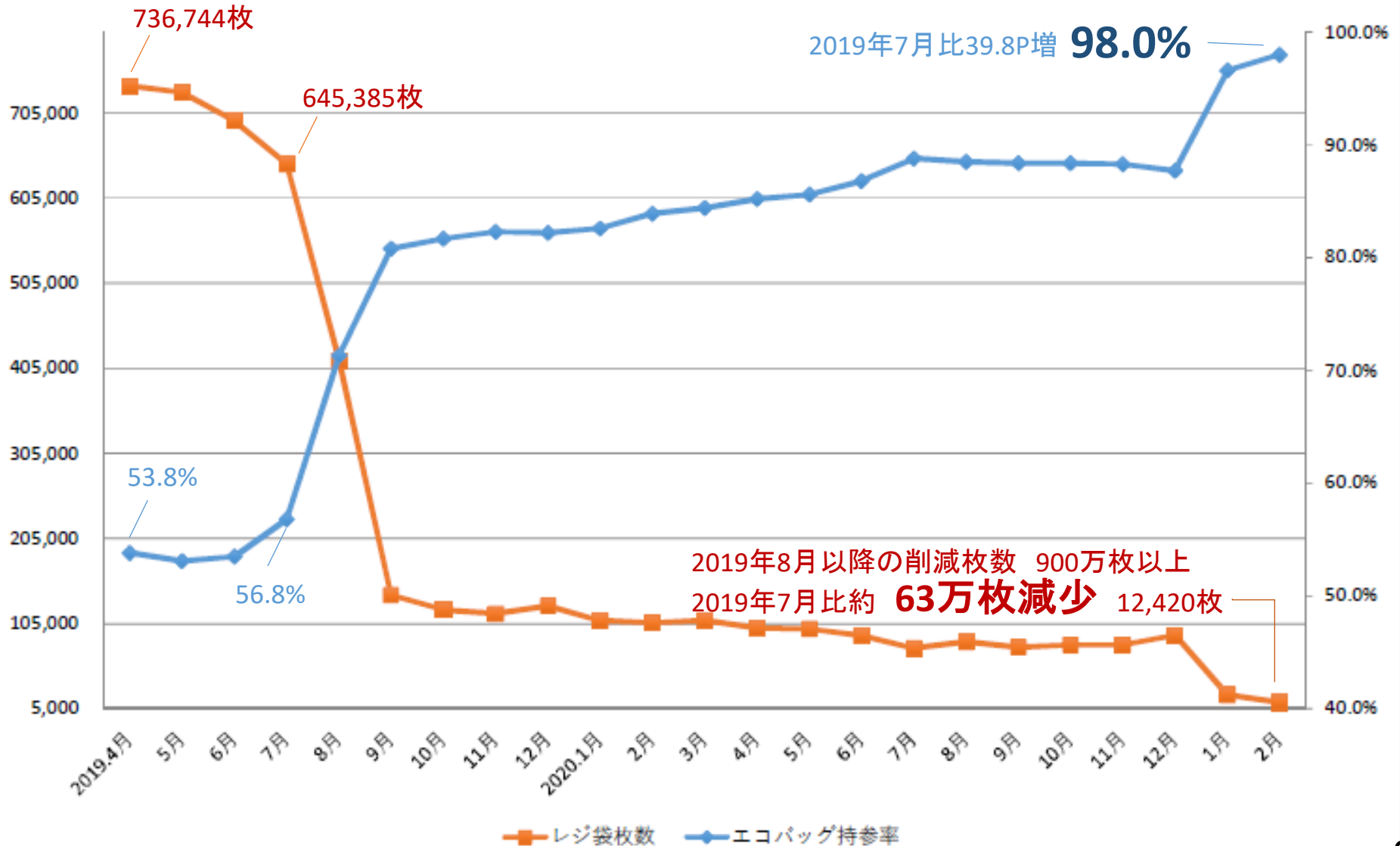
- ▶【**2021年1月1日**】**同条例施行**

- ・事業者がプラスチック製レジ袋（生分解性の袋を除く）を提供することを禁止
- ・生分解性の袋であっても無償で提供することを禁止
- ・違反者は、審査会の意見を聞いた上で氏名を公表



レジ袋有料化・提供禁止条例施行後の状況（スーパー12店舗54商店）

エコバッグ持参率・レジ袋枚数の推移



「環境×芸術」のコラボによるレジ袋削減に向けた取り組み



大空を飛んでいたパラグライダーが
その役目を終え、再びエコバッグとして
生まれ変わり、まちを飛び回る



パラグライダーの生地を
パッチワーク状に仕立てた
巨大エコバッグ



KAMEOKA FLY BAG

FLY BAG Project



HOZUBAGとして銀座ロフトで販売スタート (2020.10~)



HozuBag
HOZU BAG
(ホズバッグ)

※、販売数量により10分程度として
はご用意。別途お買い求めください
とさせていただきます。自然な風合いを
HOZUBAGがご自身の個性を表現し
ます。美しい自然素材による風合い
を備えた行き場のないバックグ
ラウンド。贈り物として「HOZUBA
G FACTORY」を日本の伝統工
業に敬意を払い、地産地消として
の環境をより良くする製品を「HOZU
BAG」と呼びます。

loft

「ペットボトルの削減」を目指す「マイボトル持参」へのアプローチ

アクション

1

公共施設7箇所にボトル型給水器を設置

・2021年度、市内小・中・義務教育学校25校に設置予定



アクション

2

市内の店舗と連携した給水スポットの拡大

・ウォーターサーバーを設置している市内の店舗を
亀岡の美味しい水給水スポットとして活用

➤登録店舗：18店（2021年4月20日現在）



アクション

3

アプリで「水」を探す新しいライフスタイルの実践

・2021年4月9日、（一社）Social Innovation Japanと「かめおか未来
づくり環境パートナーシップ協定」を締結



「リユース食器」利用促進事業（2020年7月1日～）

Jリーグ 京都サンガF.C.のホームゲーム開催日に「かめきたサンガ広場」で開催される「かめおかecoマルシェ」など、市内で開催されるイベントで使用するリユース食器の借り上げ費用に対して補助金を交付



亀岡市リユース食器利用促進補助金の概要

- 対象者
 - ①市内でイベントを主催する団体及び個人
 - ②市内で開催するイベントに出店する団体及び個人
- 対象事業 市内で開催されるイベントにおいて、リユース食器を合計100個以上利用する事業
- 補助率 リユース食器の借上げ費用の3分の2以内（上限20万円）



リバーフレンドリーレストランプロジェクト (2021年3月15日～)



■環境に配慮した取組みを実践する市内飲食店等を募集し、市内外に情報発信⇒さらなる誘客につなげる

■環境先進都市・亀岡市のブランドイメージ向上と地域経済の活性化を目指す

【River Friendly Restaurants 認定基準】

- 次の認定基準をすべて満たす
 - ・発泡スチロール容器は使用しない
 - ・ごみの減量と適切なリサイクルに取り組む
 - ・店舗内での商品の提供には、使い捨て食器等を使用しない
 - ・テイクアウト時の紙袋やカトラリー類は、顧客の要望があった場合にのみ提供する
 - ・紙ストローは顧客が希望した場合にのみ提供する
 - ・無料でマイボトルに給水できる
- 「ペットボトル製品を販売しない」などのオプション基準を2以上満たす



- エコ・スポンサー料（登録料）として3,000円負担
 - ⇒こども達の環境学習活動などに活用
 - ⇒次世代の育成

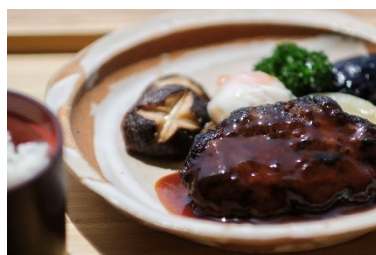
登録店舗：10店
(2021年5月1日現在

)

亀岡市役所地下1階に『開かれたアトリエ』をオープン！！ (2021年4月14日)

京都芸術大学と協働して、地下レストランを分野横断的に人々が交流できる多機能空間にリニューアル

- ▶年に数回テーマを変えながらの展覧会や、KIRI²芸術大学等のワークショップ、オンライン配信、亀岡産野菜の販売なども順次実施
- ▶図書コーナー、フリーWi-Fi完備
- ▶レストランは『ATLR CAFÉ(アトリエカフェ)』としてリニューアル！
- ▶亀岡牛や亀岡産野菜を使った多彩なメニューを提供
- ▶テイクアウト用カップにはサトウキビを使った素材を使用するなど、環境にも配慮



- 飲食しない人も自由に利用可能
- 利用料 無料
- 時間 9:00~17:00
- 土日祝も利用可 (年末年始を除く)
- カフェは平日のみ営業